



今年から子どもたちが物語に出会い、自己の読書について振り返ることを目的に、朝読書の時間に「飯綱町お話の会」の方々による読み聞かせや語り、ブックトークなどを年間通して行うことにしました。

7月2日に、2年1組は物語「町かどのジム」を語りで、2年2組は絵本「ユとムとヒ」を読み聞かせで聞きました。

「町かどのジム」の語りを聞いた生徒は「今回はお話の最初と最後の章を話してもらったが、残りの話を聞きたくなった」と話してくれました。

「ユとムとヒ」の読み聞かせを聞いた生徒は「読み方がとても上手で、自分で読むよりも物語に引き込まれる感じがした」と話してくれました。

1学期は7月9日（1年）、16日（3年）に来ていただく予定です。



7月2日の給食の時間に、放送で「心の理論」というお話をスクールカウンセラーの方から聞きました。その中で、次の問題が出されました。

「サリーとアンが同じ部屋にいます。部屋にはサリーのカゴとアンの箱があります。サリーは自分の人形をカゴに入れて、部屋を出ます。その間にアンが人形を自分の箱に移動します。その後部屋に戻ってきたサリーは、人形を取りだそうとするとき、どこを探すでしょう？」

教室で話を聴いていた生徒たちは当然のように「かご」と答えました。話によると3歳くらいの子供は「箱」と答える子供が多いそうです。聴いていた生徒は「どうして？」と不思議そうにしていました。

心が成長するにつれて「相手の立場に立って考える」ことができるようになるということなのですね。